

「ニュースリリース」

建設機械需要予測（2026年8月）

一般社団法人 日本建設機械工業会

1 概況

○2026 年度については、国内は減少、輸出は一部の機種を中心に回復し、2026 年度通年の出荷金額は合計で 3 兆 733 億円（前年度比±0%）と予測される。

○2027 年度については、回復する機種もあるものの小幅回復に留まり、2027 年度通年の出荷金額は、3 兆 993 億円（前年度比 1%増加）と予測される。

2 国内・輸出別

(1) 国内

○2026 年度は、金利上昇への懸念などを背景とした設備投資意欲低下等から、主力機種である油圧ショベル、建設用クレーン等が減少すると予測。

- ・ 上期は、道路機械が前年同期比 6%増加するものの、他 8 機種が横這い又は減少し、3,814 億円（前年同期比 6%減少）と見込まれる。
- ・ 下期は、建設用クレーン及び道路機械が増加するものの、他 7 機種が横這い又は減少となり、5,103 億円（前年同期比±0%）と予測される。
- ・ この結果、2026 年度通年では、8,917 億円（前年度比 3%減少）となり、3 年連続で減少すると予測される。（前回本年 2 月時の予測と比較して 401 億円上方修正となった。）

○2027 年度は、安定した公共投資等に支えられ、横這いで推移すると予測。

- ・ 上期は、6 機種が増加もしくは横這いとなり、3,830 億円（前年同期比±0%）と予測される。
- ・ 下期は、7 機種が増加もしくは横這いとなり、5,168 億円（前年同期比 1%増加）と予測される。
- ・ この結果、2027 年度通年では、8,998 億円（前年度比 1%増加）となると予測される。

(2) 輸出

○2026 年度は、北米、欧州は堅調に推移するものと想定し、増加すると予測。

- ・ 上期は、建設用クレーンが前年同期比 7%増加、油圧ショベルが同期比 5%増加するなど 4 機種が増加し、1 兆 640 億円（前年同期比 1%増加）と見込まれる。
- ・ 下期は、主力機種である油圧ショベルを含む 4 機種が増加し、1 兆 1,176 億円（前年同期比 1%増加）と予測される。
- ・ この結果、2026 年度通年では、2 兆 1,816 億円（前年度比 1%増加）となり、2 年振りに増加すると予測される。（前回本年 2 月時の予測と比較して、987 億円上方修正となった。）

○2027 年度は、金利水準も落ち着きミニショベル、トラクタ等が増加に転じ、横這いで推移すると予測。

- ・ 上期は、5 機種が増加もしくは横這いとなり、1 兆 689 億円（前年同期比±0%）と予測。
- ・ 下期は、7 機種が増加もしくは横這いとなり、1 兆 1,306（前年同期比 1%増加）と予測。
- ・ この結果、2027 年度通年では、2 兆 1,995 億円（前年度比 1%増加）となると予測される。

【需要予測結果の概要】

		2026 年度			2027 年度		
		上期見込	下期予測	合計予測	上期予測	下期予測	合計予測
国 内	金額（百万円）	381,400	510,300	891,700	383,000	516,800	899,800
	前年同期比（%）	94	100	97	100	101	101
	前回予測における前年同期比（%）	100	100	100	—	—	—
輸 出	金額（百万円）	1,064,000	1,117,600	2,181,600	1,068,900	1,130,600	2,199,500
	前年同期比（%）	101	101	101	100	101	101
	前回予測における前年同期比（%）	100	102	101	—	—	—
合 計	金額（百万円）	1,445,400	1,627,900	3,073,300	1,451,900	1,647,400	3,099,300
	前年同期比（%）	99	101	100	100	101	101
	前回予測における前年同期比（%）	100	101	101	—	—	—

注 補給部品は含みません。

本資料は、一般社団法人日本建設機械工業会（会長 先崎 正文）が、本年 7 月時点で正会員である建設機械メーカー 60 社を対象に実施した需要予測結果を取りまとめたものです。予測期間とした 2026 年度上下期と 2027 年度上下期の 4 期に関して、建設機械を 9 機種に区分し、国内出荷金額及び輸出金額をアンケート方式により予測調査をしたものであり、今回で 70 回目の調査となります。